

# 令和5年度学校自己評価システムシート (県立草加南高等学校)

目指す学校像	困難に挑戦する強い心と豊かな人間性を育み、グローバルな視点をもって社会に貢献する人材を育成する
--------	---

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実践、指導と評価の一体化を進め、学習指導の質を高める 2 一人ひとりの生徒理解を基礎とする、自主性を促しつつ、適切かつ組織的な生徒指導をすすめる 3 多様な進路実現に向けきめ細かな指導を継続すると共に、大学入試改革に対応できる進路指導を確立する 4 グローバル人材育成事業及び本校独自のプログラムを通し、地域に開かれた学校づくりを推進する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			実 施 日 令 和 6 年 2 月 6 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	タブレットやデジタル採点等のICTを効果的に活用した授業実践及び対話的な授業実践を推進しようとする気運が醸成されている ・タブレットやデジタル採点等のICTを効果的に活用した授業実践や問題作成の研究 ・観点別評価の基準の改善 ・対話的な学びや探究的な学びの実践	①タブレットの活用状況 ②観点別評価基準の改善 ③対話的な学びや探究的な学びの実践	1 タブレットやデジタル採点等のICTの活用についての研修を実施する 1 朝学習等での学習支援アプリの利用状況を把握し、活用させる 2 観点別評価基準を改善する 3 教科横断的に対話的な学びや探究的な学びを実践する	1 タブレットやデジタル採点等のICTの活用についての研修の実施(1回) 1 学習支援アプリ利用頻度の向上 1 成績優良者の増加(R4年度1・2学期平均:11.9%) 1 授業理解度の向上(R4:90%) 2 観点別評価基準の改善 3 教科横断的に対話的な学びや探究的な学びの実践 3 校内外における学習成果の発表	①デジタル採点研修会実施(1回) ①タブレット使用状況 ・授業においてノート、復習、スライド作成、調べ学習等に使用(1学年) ①成績優良者の割合(R5 1-2学期平均)(13.5%:昨年度比2ポイント増加) ①授業理解度 90%(昨年度同水準) ②各教科での検証を踏まえた教育課程委員会での研究 ③教科横断的な授業2回実施(外国語科×家庭科、外国語科×国語科)(各1回、10月、11月) ③高校生ビジネスプラン・グランプリにエントリー(外国語科3年) ③スーパープレゼンテーション校内発表(1月)	A	・タブレットの活用は定着した。より学習効果が高い活用方法の研究を継続 ・さらなる授業力向上を目指し、授業の相互観察や研究授業による授業研究を推進 ・探究的な学習を推進するため、外部機関との連携や教員の指導力向上のための研修体制を充実	・きめ細かい指導が行われ、生徒の学びを支えている。ICTの活用は日常化しているので、今後はICTを活用してどのような資質・能力を育成したいのか整理することが必要ではないか。また、生徒達が学びの見通しを持ちながら学び、力がついたことを自分自身で納得ができるような指導をお願いしたい。 ・今後はますます表現する力が重要になってくるので、自分の意見等を表現する場面を日頃の授業から意識的に取り入れてほしい。
2	生徒の生活習慣や規範意識は、概ね良好であるが、受動的な姿勢が見受けられる ・生徒の抱える課題の多様化 ・生徒理解の共有と組織的な対応 ・相談しやすい関係性や体制の充実 ・社会の変化や価値観の多様化への対応	①的確で迅速な生徒理解 ②生徒理解の共有と組織的対応 ③指導内容の見直し	1 アンケートや対話等を通じて生徒理解を深める 2 メンタルヘルスの研究を推進する 2 多様な生徒の課題に組織的に取り組む 3 社会の情勢や生徒との対話を踏まえて、生徒指導規定を見直す	1 アンケートや面談等の実施 2 メンタルヘルス推進校としての研究および実践 2 学年と特別支援委員会との組織的な連携 2 教育相談機能の充実 3 生徒との対話の場の設定	①いじめアンケート実施(各学期1回) ①メンタルヘルスクア研究推進事業の活用(アンケート(1年対象)・1回) ①保護者対象研修会(1年対象・1回) ①メンタルリテラシー向上のための授業実施(1年対象・1回) ②特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、日本語支援員等の活用 ③社会情勢を勘案し、生徒会役員との対話を通じ、生徒の主体性を重んじた生徒指導規定の見直し	B	・生徒の抱える課題は多様化している。関係機関との連携及び校内相談体制のさらなる充実並びに生徒が相談しやすい環境を構築 ・社会情勢を勘案しながら生徒との対話を通じた生徒指導規定の見直しなど柔軟的な対応 ・登下校時の交通ルール遵守及び交通事故防止	・生徒の抱える課題が多様化していることについて、引き続き相談体制の充実をお願いしたい。 ・生徒との対話によって生徒指導規定などを見直すなど、生徒の主体性を重んじた生徒指導の姿勢は評価できる。
3	多様な進路志望や大学入試改革に対応するため、全職員による指導体制で臨んでいる ・多様な進路志望に対応できる体制の充実 ・生徒及び保護者への大学入試等の進路情報の発信 ・外部検定等の受検に向けての指導体制の充実	①進路指導体制の充実 ②進路情報の発信 ③学習支援アプリの活用 ④外部検定等の受検に向けての指導の充実	1 全職員で進路指導を行うという共通意識を醸成し、全職員による指導体制を構築する 2 面談、集会(講演会)等を実施する 3 学習支援アプリの利用状況を把握し、活用させる 4 外部検定等の受検を推奨するとともに指導方法を工夫、改善する	1 全職員の3年次進路指導への関与状況 2 面談、集会(講演会)等の実施 3 学習支援アプリ利用頻度の向上 4 英語検定等の受検者数及び合格者数の増加	①全職員体制による3年次進路指導実施(面接指導・小論文指導) ②保護者対象進路説明会の実施(1・2年対象 年2回) ③学習支援アプリの活用75%(1月アクティブ状況) ④英検全員受検(1・2年準2級以上33%) ④朝学習におけるスタディサプリイングリッシュの活用(1年)	B	・生徒の多様な進路希望に対応できるよう、高大接続についてさらに研究を推進 ・ロールモデル研究や講演会などを通じて生徒がより高い目標を立てられるような環境を整備 ・生徒、保護者への進路情報の発信強化 ・英検の全員受検継続及び進路との接続を意識した受検への意識付け	・面談や講演会の実施など丁寧な進路指導が行われている。また、今年度新たに取り組んだ保護者に対する情報発信も評価できる。次年度以降も継続的な実施をお願いしたい。 ・英検の全員受検は今後も継続し、アプリを活用するなどして合格実績を上げてほしい。
4	新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る各種規制の緩和により、外部機関との交流や学校行事の公開等が実施しやすい状況になっている ・外部機関との交流や、学校行事等の公開による、地域に開かれた学校づくりの推進 ・地域や中学生に向けてのHP、SNSや中学校訪問等を活用した本校の魅力や教育活動についての発信	①外部機関との交流や、地域や保護者への学校行事等の公開 ②HPやSNS等を活用した情報発信	1 外部機関との交流や、地域や保護者に学校行事等を公開する 2 HPやSNSを活用し、本校の魅力や教育活動について、地域、保護者や中学生へ発信する	1 外部機関との交流や地域や保護者への学校行事等の公開状況 2 HPやSNSによる情報発信状況	①体育祭・文化祭公開 ①部活動による外部機関との連携(女子バレー部、ソフトテニス部、演劇部、吹奏楽部、家庭部等) ②HPやSNS等を活用した情報発信 ②公式Instagramでの発信(投稿45回) ②各部活動のSNSによる情報発信 学習塾訪問による中学生進路情報の共有 ②学習塾対象説明会実施(1回)	A	・学校行事を精選し、効果的な実施ができるよう内容等の見直し ・コロナ感染対策は十分に対応しながら、引き続き、感染を未然に防ぐ方策の継続 ・草加南高校の教育活動の成果について、より効果的な広報方法を研究	・行事を含めて様々な教育活動をコロナ禍前の状態に戻す際に、内容等を精査して合理的かつ効果的に工夫が必要ではないか。 ・HPやSNSを用いての情報発信は評価できるが、閲覧数を増やす工夫をしてほしい。 ・外部機関との連携・交流や地域・保護者への学校行事等の公開など、地域に開かれた学校づくりをさらに推進してほしい。